



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2015 開校！

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014 年度からスタートし、2 年目を迎えました。

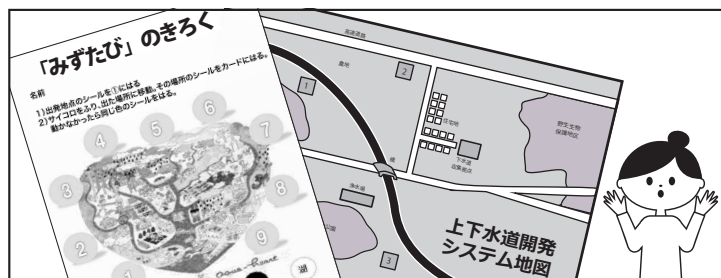
連続講座レポート

第 1 回 開校式～もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

6/13(土)、水ジャーナリストで「水の学校」名誉校長の橋本淳司さんをファシリテーターに迎え、初回講座を開催しました。冒頭で邑上市長が市の水課題に触れながら、身近な水循環を考えるきっかけとしての「水の学校」への期待を述べたのに続き、事務局から「水の学校」全体の仕組み、今後の連続講座の進め方、2014 年度修了生有志による「水の学校サポーター」の紹介などを行い、開校式としました。

しずくになって水の大冒険

最初のアクティビティは参加者自身が水のしずくになって、地球上の水循環を体験する「みずたび」です。海・雲・地下水・川・植物・動物・土など、水がある場所で指定のサイコロを振り、出た目にしたがって次々と移動していきます。雲と海の行き来を繰り返したり、川から動物、その後土へ行くなど、それぞれの水の旅路を発表しあいました。橋本さんからは、自然の水循環のしくみ、人のくらしが関わることによる変化、武蔵野市で起こっている水の旅の特色などの解説がありました。特に、「地下水を直接人間（動物）が使う」という自然界では起こらない水の動きや、水が穀物や製品などに形を変え、国を越えて移動しているという話には、多くの方が自分の生活を振り返って、驚きや発見を感じていた様子でした。



上下水道料金は 어떻게 決まる？

続いては、上下水道料金の成り立ちをグループワークで探る、「正当な価格」というアクティビティです。受講生は班ごとに架空の市の水道コンサルタントチームとして、地図を見ながら「水源から浄水場まで」、「污水収集拠点から下水処理場まで」のそれぞれについて経済的かつ環境に配慮した計画を考えます。水源、農地、住宅、国立公園などの位置関係や地形を意識しながら、配管や、道路や川の横断等にかかる費用の単価を参考に、送水ルートと工事費を検討しました。環境配慮とコストのバランスをとりながら上下水道サービスを提供するにはどうするとよいのか、班ごとに真剣に話し合っていました。

受講生の声より

- 身近で必要な水について知ること考えることの糸口がわかりました。今後の講座が楽しみです。
- 水の「循環」という考え方を知り、毎日使っている水の大切さを実感しました。
- 余り気にせず水道水を使っていた日々。使用後の水の処置について改めて考え直しました。



「水の学校サポーター」の活動がスタートしました！

2014 年度「水の学校」修了生から 12 名の方がサポーターとして今年度の水の学校に関わっていただくことになりました。

6/6(土)のオリエンテーションでは、「水に関する新聞・雑誌の記事に目が止まるようになった」「水を味わうようになった」といった講座後の自身の変化を伝え合い、今後へ向けた意見交換を行いました。

サポーターからの意見・アイデア

【今年「水の学校」でやってみたいこと】

- 水の「安全性」に関する情報の提供
- 玉川上水の清掃
- 下水管とその寿命に関する勉強会
- 雨水茶作り
- 井の頭公園のかいばり見学
- 水を通した子どもを含めての交流

【長い目で実現したらいいなと思うこと】

- 市内に清流が流れる小さな水路が出来るといいな
- 下水のガスを利用した発電を可能にしたい！
- 玉川上水の水辺において水にさわれるようになったら良いなあ

水コラム no.8: 水にも出入りのバランス?! 武蔵野市の「水収支」

水は絶えずめぐっている

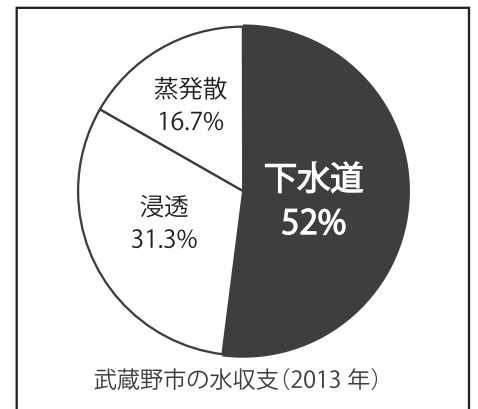
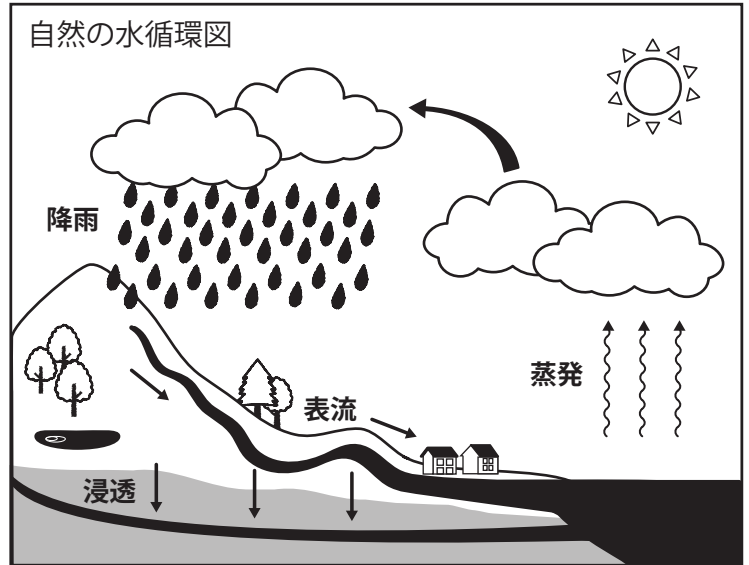
地球上にある水は、蒸発、降雨、浸透などを繰り返して絶えず地球上をぐるぐるとめぐっています。これを「水循環」といいます。また、一定の場所に雨が降り、それが蒸発したり、土にしみ込んだり、他の場所へ流れ出たり…という場所ごとの水の出入りを「水収支」といいます。

水収支を把握し、そのバランスを保つことは、健全な水循環を作り、水資源を持続的に利用していく上で大切なことと考えられています。

武蔵野市に降る雨のゆくえは？

武蔵野市の 2013（平成 25）年度の「水収支」を見ると、1 年間の降雨量（1752 万トン / 年）に対して、自然に蒸発散される量が 16.7%（293 万トン / 年）、地中浸透する量が 31.3%（548 万トン / 年）、下水道に流れ込む量が 52%（911 万トン / 年）でした。

下水道に流れ込んだ雨は市外にある水再生センターへ運ばれ、処理されるため、武蔵野市に降った雨の約半分は市外へと流れ出ていることになります。武蔵野市では、流出する雨の量を昭和 20 年代と同程度の 40%にまで減らし、市域での水の出入りを健全にする取り組みを進めています。「雨水貯留施設」や「雨水タンク」などを増やし、雨を一旦蓄えて活用したり、ゆっくり下水道へ流す取り組みに加えて、「しみこませる」ことも有効です。コンクリートやアスファルトに覆われた市街地では雨が地中に戻りにくくなっていますが、住宅の敷地に「雨水浸透ます」を設置したり、道路の舗装を浸透性のものに変えることで、より多くの雨を地中に返すことができ、それが地下水のかん養を促します。こういった取り組みが、未来の世代に豊かな水資源を引き継ぐことにつながっています。



関連イベント「水道水はどうやって作られる？市内浄水場見学」



合計 186 名参加で大盛況！

晴天に恵まれた 6/7（日）、吉祥寺北町にある第一浄水場の見学会が開催されました。4 回の見学ツアーが実施され、合計で 186 名もの参加がありました。

武蔵野市の水道水は、約 80% を市内で汲み上げた地下水が占めているのが大きな特色です。市内に 27 か所ある水源井戸や浄水場での処理の仕組みについての説明の後、場内設備を順を追って見学しました。

浄水場から暮らしが見える?!



浄水場の頭脳とも言うべき監視室では 24 時間体制で貯水量や市内に送り出す水の量をチェック。朝になると身支度や炊事・洗濯などで使用量が増え、昼間は一旦減少しますが、夕方以降、皆さんの帰宅に合わせてまた増える様子がグラフから読み取れ、生活スタイルが水の使用量と密接に関わっていることがよくわかりました。



水処理はとてもシンプル！

原水となる地下水はもともと水質がよいので、処理工程はいたってシンプルです。塩素消毒ののち、水道管に付着しやすい鉄やマンガンを取り除き、配水池からポンプで各家庭や学校、施設などに送り出しています。地下水以外の約 20% は、東京都の水道局で高度浄水処理された水を購入しています。購入している水は川の水が原水で処理の方法も異なります。

見学会ではこれらをそれぞれ飲むこともできました。2 種類の水は浄水場でブレンドしてから各家庭に送り出しているので、それぞれ別々に味わうことができるのはこの場所だけ！地下水に含まれるミネラル分のためか、武蔵野の水の方が「味がする」「ちょっとくせがある」というコメントが聞かれました。

